

<p><めざす学校像></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばす教育を推進する学校 2 児童生徒が明るく笑顔で挨拶を交わし、健康で安全に過ごせる学校 3 教職員一人一人が自分の力を発揮できる、やりがいのある学校 4 保護者や地域から信頼される、社会に開かれた学校 <p>重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の主体的・対話的で深い学びや系統的な学びにつながる授業づくりを行う。 2 情報発信に努め、安全で安心な学校環境づくりを進める。 3 家庭や地域と連携して、社会に開かれた魅力ある学校づくりを行う。 <p>令和10年度に向け、新さくらんぼ学園の構想（教育内容等）を計画する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 校内外の研修の機会をとおして、特別支援教育の専門性を高める。 5 教職員間の協力体制の在り方を点検・検討し、協働して効率的に業務にあたり、教育活動の充実を図る。 			
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
小学部	学習グループを超えた集団による教育活動の充実と教職員のウェルビーイングの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会、クラブ、部集会、取り出し授業、隣接学年合同授業、社会見学等において、授業担当者間と担任等が児童の実態や学習状況を共通理解し、主体性や関わりが深まる授業をつくる。 ・学校生活の様子がよく分かる記事等をホームページに掲載する。 ・業務の効率化を図り、教職員一人一人が得意分野や強みが発揮できる職場環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の共有や個別の指導計画の検討を深め、学習の段階別指導内容表を有効活用しつつ、教職員の話合いや打ち合わせの時間を十分確保する。 ・ホームページに掲載する際には、個人情報保護の観点に十分留意する。 ・教員評価シートを作成する際には、各自の得意分野や強みを意識した目標設定ができるように心がける。
中学部 (光陵校舎)	生徒一人一人が地域で力を発揮できるよう、ICT活用、キャリア教育、交流及び共同学習を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人に合わせたICT活用で学力とコミュニケーション力を伸ばす。 ・将来を見据えて地域に根差したキャリア教育や交流及び共同学習を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会、個別の指導計画検討会、ケース会などの時間を活用し、生徒一人一人の課題を把握し、ICTを活用した指導につなげる。 ・将来の生活を見据え、職場体験や福祉事業所見学、外部講師、交流及び共同学習など体験的な活動の充実を図る。
高等部 (光陵校舎)	卒業後を見据え、たくましく柔軟な心を育み、地域・社会で主体的にもてる力を発揮できる生徒の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の方や学校と交流し、様々な人とかわりながら豊かな情操を養う。 ・自立活動を中心として健康の維持向上を図り、社会生活に必要な力を身に付ける。 ・生徒の将来目指す姿を保護者や関係機関と共通理解を図り、個に迫った目標を段階的に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年や学習集団に合わせた交流および共同学習を推進し、自他を思いやる気持ちを育成することで円滑なコミュニケーション能力を高める。 ・一人一人の実態を的確に把握し、学習の状況について意見交換しながら適切に目標を設定することで、社会自立に向けて適応するための力を、身に付ける。 ・生徒の自己選択や自己決定を重視しつつ、自身の良さや可能性を引き出せるような授業実践を行う。また、進路に関する情報交換を保護者や関係機関と密に行い、系統的な進路指導を推進する。

総務部	保護者や地域に開かれた特色ある学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の美化に向けて、環境を整え、地域の方と協力して環境整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎の備品の整理をしたり、掲示計画を考えたりして、誰もが使いやすい備品、見やすい掲示になるよう心掛ける。また、保護者や地域の方に参加を呼びかけ、花や緑を楽しめる自然豊かな学校にする。
教務部	学びの系統性連続性を踏まえた学習指導の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教育計画の活用方法の啓発と検証を行う。 ・年間指導計画を活用した授業づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画検討会の進め方を啓発し、個別の指導計画、学習の記録をもとに、児童生徒の学習評価を適切に行えるようにする。 ・各教科において、教科間のつながりや系統性のある学習指導を考えられるよう、年間指導計画の活用方法の啓発や研修会を実施する。
研修部	児童生徒の主体的・対話的で深い学びや系統的な学びを育てるための教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・校内・校外の研修を通して肢体不自由教育に関する研修の充実を図る。 ・主体的・対話的で深い学びや系統的な学びにつながる授業を目指した研究を行い、学校全体で共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のニーズを把握し、各分掌と連携したり、校外研修の案内を積極的に発信したりし、教職員が必要な研修を主体的に選択して受講できるようにする。 ・主体的・対話的で深い学びや系統的な学びの実現のために、教員間の対話を促し、協働して校内研究が行えるようにする。また、R8年度以降の研究の取り組み方を教員全体で考え、取りまとめる。
教育情報部	ICT機器の利用スキルの向上 教職員の情報モラルの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業中にICT機器利用研修会を開催する。 ・著作権に関する研修会や情報提供を行うとともに、定期的な啓発で情報管理意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末以外にも各種機器の情報提供や操作体験を通して普及啓発に繋がるような内容の研修会を企画する。 ・著作権法第35条や第30条の2などを踏まえて、授業外の利用などについても正しい認識をもてるようにする。
生徒指導部	安全で安心な学校環境づくりと地域交流活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各部の集会や委員会、生徒会、クラブ活動などの実施方法や内容の見直しをする。 ・避難訓練やシェイクアウト訓練、防災教育などを通して、防災や減災の意識向上を図る。 ・併設校や近隣の高等学校、地域などとの交流活動や栽培体験、キャリア教育の取組に、「小中一貫教育に係る支援事業」を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年や他部児童生徒との交流機会を充実させ、互いの個性を認め合う関係を築けるようにする。 ・避難訓練は余震や停電、傷病者の対応など、起こり得る事象を想定した内容とする。 ・各部、各分掌と連携して進め、事業を活用しやすくなるように情報の提供を行う。
進路指導部	関係機関や地域との連携を基盤にした、キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用して力強くキャリア教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の福祉施設、公共施設、企業、その他の関係機関と連携することで職場体験、現場実習、作業学習、外部講師による学習等、社会生活に必要な力を育む取組を充実させる。また、教職員や保護者に進路に関する情報を伝え、共通意識をもって進路指導に取り組めるようにする。

		<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携して卒業後のよりよい社会生活を目指した取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の状況や保護者の思い、関係機関の現状や課題等を伝え合う機会を作り、一緒になって進路について考え、進路先の確保につなげられるようにする。 (マナー講座、障がい者スポーツ体験、進路先紹介動画、施設見学、キャリア教育全体計画)
保健部	安全・安心な教育環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアが安全に実施できるよう体制を整備する。 ・健康・安全面に対する意識を高め、事故防止や適切な学習環境を保つよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師、養護教諭、教諭が密に情報共有ができる機会を設定する。 ・医療的ケアの児童生徒が在籍している市内の小中学校と連携を図る。 ・事故を未然に防ぐことができるように、ヒヤリハット事例を周知し、安全対策について情報共有する。また、適切な学習環境を保つための情報を発信していく。
自立活動部	児童生徒の教育的ニーズに応じた自立活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動室の安全な使用と備品や教材が有効に活用できるよう整備する。 ・教職員に対する校内支援体制を充実させるとともに、自立活動に関連した校内研修を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動室の備品や教材教具を分かりやすく保管、配置するとともに、トランポリン点検を実施し、安全に活用したり定期的な清掃をしたりして環境を整える。 ・自立活動ケース会を活用し、教職員間で支援方法について検討したり、情報共有したりできるようにする。また、研修内容や講師を校内職員のニーズから検討したり、大学などの関係機関と連携したりすることで、校内研修と校内支援体制を充実させ、自立活動の専門性の向上を図る。
教育支援部	特別支援教育のセンター的機能の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特別支援教育のセンターとして、地域の教育機関(幼・小・中・高)との連携を深める。 ・さくらんぼ相談だよりや全校研修を通じて、地域に向けた活動を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係諸機関と連絡を取り合うとともに、合同研修会やさくらんぼ相談(学校巡回)を通して、具体的に支援を行う。 ・教育支援部の活動を教職員に伝え、学校全体で地域のセンター的機能を担っていることを意識する。
勤務時間の適正な管理及び協働的かつ効率的な業務の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・出退勤システムによる適正な勤務時間の入力を推進する。 ・計画的に業務改善を図ることにより、業務の効率化を推進する。 	